FINANCIAL REPORT OF THE TOHO UNIVERSITY

－　学校法人東邦大学の財務状況報告　－

（１）はじめに

平成 18 年度より TOHO UNIVERSITY NOW 誌上で定期的に学校法人東邦大学の財務状況をご報告しており、今回は 4 回目になります。

学校法人はその公共性の高さから、透明性の高い財務情報の公開が求められておりますが、本法人は決算確定後に法人ホームページに決算書類を速やかに公開するなど、より積極的な「情報の提供」という姿勢で、財務状況について関係者の皆様にご報告するよう取り組んでおります。

昨年来の世界的金融危機では学校法人が資産運用に失敗して多額の損失・評価損を出したことが報じられております。関係者の皆様には本法人の資産運用の現況についてご心配の向きもいらっしゃると思います。今回は資産運用、平成 20 年度決算、21 年度予算を中心に本法人の財務状況とその課題について、関係者の皆様にご理解頂けるようご報告いたします。

学校法人の計算書類

①資金収支計算書
- 資金収支内訳表
- 人件費支出内訳表

②消費収支計算書
- 消費収支内訳表

③貸借対照表
- 固定資産明細表
- 借入金明細表
- 基本金明細表

④財産目録

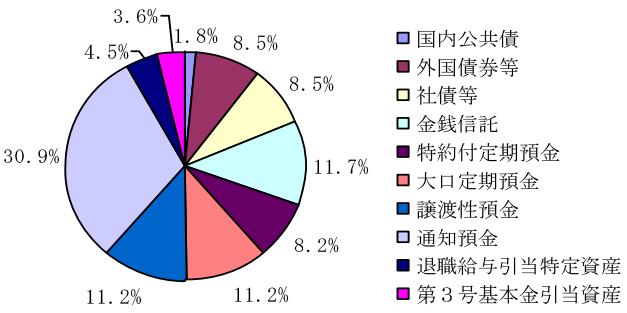
＊計算書類ではありませんが、この他に事業報告書を作成しなければなりません。

学校法人の会計処理は「学校法人会計基準」に則して行われます。学校法人会計基準は複式簿記の原則、一般に公正妥当と認められる企業会計の原則を内容とする部分は企業会計と変わりありません。しかし、学校法人が作成しなければならない計算書類は右上図のとおりで、学校法人会計独特のものとなっております。

また、学校法人会計の特色として、「基本金」があります。基本金とは「学校法人が、その諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持すべきものとして、その帰属収入のうちから組み入れた金額」で、要するに学校法人の財産的な基盤を確保するためのものです。

（２）本法人の資産運用について

資産運用状況（平成20年度末）



（単位：千円）

国内公共債	399,774
外国債券等	1,899,800
社債等	1,885,500
金銭信託	2,600,000
特約付定期預金	1,818,020
大口定期預金	2,500,000
譲渡性預金	2,500,000
通知預金	6,900,000
退職給与引当特定資産	1,000,000
第３号基本金引当資産	799,549
計	22,302,643

平成 20 年度末の本法人の運用資産は 223 億円あり、その内訳は上のグラフのようになります。今回の金融危機では多額の損失を出した学校法人もありますが、本法人には殆ど影響はありません。

本法人の資産運用は法人本部財務部が担当し、資産運用規程に則して行っております。本法人の運用資産が学費や皆様からの寄付金、税金である補助金などで成り立っていることを常に念頭に置いていることは当然ですが、資産運用規程で運用を安全性の高いものに限定しており、また、金額によっては理事長、財務担当理事の決裁案件とし、さらに定期的に運用状況を理事会に詳しく報告するなどリスク管理に充分配慮した運営を行なっております。

（３）平成 20 年度決算について

①平成 20 年度消費収支計算書の概要

資金収支計算書と消費収支計算書は大部分の内容が重複しておりますので、企業会計の損益計算書に似た性格を持つ消費収支計算書について概要をご報告いたします。

〔消費収入の部〕　（単位：百万円）

科目	予算（A）	決算（B）	帰属収入に対する構成比	予算比（B－A）
学生生徒等納付金	11,761	11,822	17.4%	61
手数料	414	475	0.7%	61
寄付金	1,871	2,444	3.6%	573
補助金	3,669	3,799	5.6%	130
資産運用収入	602	625	0.9%	23
資産売却差額	0	22	0.0%	22
事業収入	526	396	0.6%	△130
医療収入	49,088	46,985	69.3%	△2,103
雑収入	947	1,226	1.8%	279
帰属収入合計(ア)	68,881	67,798	100.0%	△1,083
基本金組入額合計	△4,891	△3,391	－	1,500
消費収入の部合計(イ)	63,989	64,406	－	417

授業料や入学金等で構成されます。

主に入学検定料で構成されます。

皆様からの寄付金で構成されます。

国や地方自治体からの補助金です。

主に付属病院の入院や外来の診療収入で、帰属収入の約２／３を占めています。

帰属収入とは、その年度の学校法人の負債とならない収入のことです。

〔消費支出の部〕　（単位：百万円）

科目	予算（C）	決算（D）	帰属収入に対する構成比	予算比（D－C）
人件費	34,143	34,066	50.2%	△77
教育研究経費	14,405	13,911	20.5%	△494
管理経費	3,819	3,686	5.4%	△133
医療材料費	14,847	14,511	21.4%	△336
借入金等利息	563	545	0.8%	△18
資産処分差額	163	233	0.3%	70
徴収不能額	0	8	0.0%	8
徴収不能引当金繰入額	58	62	0.1%	4
予備費	297	－	－	△297
消費支出の部合計(ウ)	68,299	67,026	98.9%	△1,273
帰属収支差額(ア－ウ)	581	772	1.1%	191
消費収支差額(イ－ウ)	△4,309	△2,619	－	1,690

人件費に大きな影響のある人事制度については徐々に見直しが行われています。

教育研究のために支出する経費です。

薬品や診療材料などに支出する医療経費です。

予算外の支出がある場合に使用します。

企業会計の当期純利益に相当します。

（注１）百万円未満は切捨てです。　（注２）予算額は補正後の予算です。

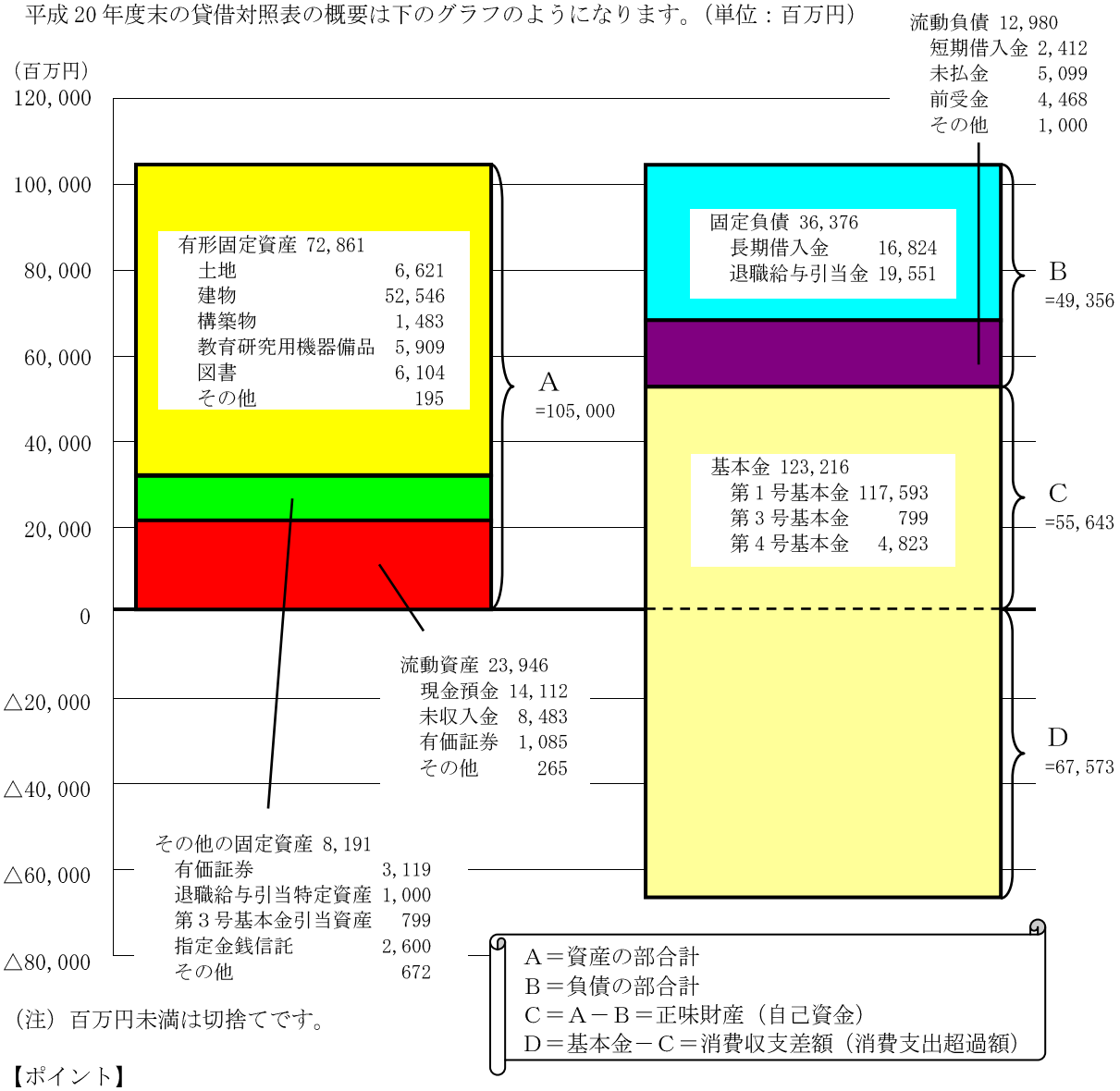
【ポイント】

・平成 20 年度決算は、帰属収入 677 億 98 百万円、消費支出 670 億 26 百万円で、帰属収支差額は 7 億 72 百万円の黒字となりました。帰属収支差額は 1 億 91 百万円予算を上回り、また前年度に比べますと黒字幅が 3 億 30 百万円拡大いたしました。前年度比増益要因としては、前年度は建物等の除却に伴い発生する固定資産処分差額が 6 億 56 百万円あったのが、当年度は 2 億 32 百万円へ大きく減少したことがあります。この特殊要因を勘案しますと実際は若干の減益であったと言うこともできます。
・収入については、事業収入、医療収入が予算を下回り、その他は予算を上回りました。
・医療収入は、各病院とも前年度実績を上回り、合計で 24 億 62 百万円の増収となりましたが、予算に対しては 21 億 03 百万円の大幅未達となりました。
・寄付金は予算を 5 億 73 百万円上回りました。寄付者の皆様には心より御礼を申し上げますとともに、ご厚志は教育・研究のために有効に活用させて頂きます。
・支出については、人件費が予算を 77 百万円下回ったほか、教育研究経費、管理経費、医療材料費もそれぞれ予算を下回りました。教育研究経費以外の支出はできるだけ抑制するよう取組んでおります。
・帰属収入に占める人件費比率は前年度から 0.4 ポイント低下し、50.2%になりました。他大学並みに 50%を下回るレベルにまで早期に引下げるよう努力いたします。

法人ホームページ(http://www.toho-u.ac.jp/)に予算書、決算書、事業報告書等を掲載しています。

②平成 20 年度貸借対照表の概要

平成 20 年度末の貸借対照表の概要は下のグラフのようになります。（単位：百万円）



（注）百万円未満は切捨てです。

【ポイント】

・平成 20 年度末の総資産は 1,050 億円で、前年度に比べ 18 億 92 百万円減少いたしました。負債は 493 億 56 百万円で前年度比 26 億 65 百万円減少しております。そのうち借入金は約定弁済のみで、新規の設備借入がなかったため前年度比 26 億 38 百万円減少いたしました。また、総資産から負債を差引いた正味財産（自己資金）は 556 億 43 百万円となり、前年度より 7 億 72 百万円増加いたしました。

・基本金については、第 1 号基本金に 25 億 15 百万円を、また第 4 号基本金に 8 億 76 百万円を組入れ、平成 20 年度末には 1,232 億 16 百万円の残高となりました。

③平成 20 年度に実施した主な設備投資事業

平成 20 年度には教育・研究環境等の整備のために、次のような設備投資等を実施いたしました。

・医学科(仮)ﾊｲﾃｸ・ﾘｻｰﾁ・ｾﾝﾀｰ整備工事	1 億 44 百万円
・医学科 e ﾗｰﾆﾝｸﾞ・ｻﾎﾟｰﾄ・ｾﾝﾀｰ整備工事	63 百万円
・医学科解剖学実習準備室整備工事	36 百万円
・大森病院 2 号館地下 1 階機械室内冷凍機他更新工事	78 百万円
・薬学部 A 館空調設備(南側講義室系統)更新工事	50 百万円
・理学部Ⅰ・Ⅲ号館ﾄｲﾚ改修工事(1 階～5 階)	50 百万円

（４）平成 21 年度予算について

学校法人は予算の作成が私立学校法第 42 条により要請され、法人運営に対する予算の拘束性が強いと考えられます。本法人でも経理規程第 59 条に「予算外支出は、原則としてこれを認めない。」と明記しております。即ち、予算の内容がその年度の本法人の事業そのものということになります。

本法人は平成 17 年度から競争に打ち勝ち生き残りを確実にするための「サバイバル予算」と称する予算を編成しております。平成 21 年度予算も「サバイバル予算」の５年目として位置付け、財務基盤の強化に全力で取り組んでおります。

①平成 21 年度消費収支予算書の概要

平成 21 年度消費収支予算書の概要は下の表のようになります。

〔消費収入の部〕　（単位：百万円）

科目	予算
学生生徒等納付金	11,873
手数料	425
寄付金	1,979
補助金	3,745
資産運用収入	594
資産売却差額	14
事業収入	446
医療収入	52,090
雑収入	992
帰属収入合計(ア)	72,162
基本金組入額合計	△2,393
消費収入の部合計(イ)	69,769

〔消費支出の部〕　（単位：百万円）

科目	予算
人件費	35,989
教育研究経費	14,785
管理経費	4,042
医療材料費	15,315
借入金等利息	485
資産処分差額	205
徴収不能額	0
徴収不能引当金繰入額	56
予備費	300
消費支出の部合計(ウ)	71,181
帰属収支差額(ア－ウ)	981
消費収支差額(イ－ウ)	△1,412

（注１）百万円未満は切捨てです。

②平成 21 年度の主な設備投資事業

本法人は平成 21 年度に教育・研究環境等の整備のために、次のような設備投資等を予定しています。

- 医学科２号館Ｃ棟講義室改修工事　1 億 57 百万円
- 大森病院化学療法室整備工事　1 億 55 百万円
- 大森病院中水設備新設工事　1 億 50 百万円
- 東邦中高白羽寮改修工事　1 億 11 百万円

（５）財務基盤強化への取り組みについて

財務の課題

①人件費比率の逓減
②外部資金の積極的な獲得
③教育・研究への効果的な支出

右図の３項目については本法人の課題として引続き取り組んでおりますが、財務基盤強化のため、特に次の２点を重点的に強化いたします。

①高度先進医療の推進による医療収入の増大

平成 20 年度の医療収入は前年度比 5.5%の増収となりましたが、予算に対しては大幅未達に終わりました。これまで実施してきました付属病院に対する大型投資の効果が収入面でも顕著に表われるよう、今後も引続き高い目標に向かって取組んでまいります。

②外部資金の獲得

本法人の教育・研究環境等を整備するには補助金などの外部資金を活用することが非常に重要です。本法人も補助金事務なども担当する研究支援部門を徐々に整備しております。大学などの様々な特色ある取り組みに対する補助金等も増額傾向にありますので、積極的に獲得していくつもりです。

最後になりますが、本法人の財務基盤強化のため、今後も関係者の皆様のより一層のご理解、ご支援をお願い申し上げます。

（法人本部財務部）

法人ホームページ(http://www.toho-u.ac.jp/)に予算書、決算書、事業報告書等を掲載しています。